

# これまでの東洋経済CSR調査の総括、 今後の展望について

---

2023年4月25日・28日

株式会社東洋経済新報社

『CSR企業総覧』前編集長

岸本吉浩

# 東洋経済CSR調査の枠組みを改めてご紹介

## ■東洋経済CSR調査の概要

- 東洋経済110周年（2005年）記念事業として開始
- 中立的な立場でCSR（企業の社会的責任）調査を実施
- CSR評価・財務評価を行い、企業の総合評価を作成
- 「よい会社（信頼される会社）」を見つけるための基礎情報収集・提供
- 一般的にESGデータと呼ばれる情報を時系列で保有
- 調査データは『CSR企業総覧』にすべて掲載
- ランキング・集計表データは『CSR企業白書』などに掲載

## ■CSR（ESG）情報を掲載

4901  
富士フィルムホールディングス

1702社掲載

東洋経済 For Research & Analysis

Data Bank SERIES 2023

【雇用・人材活用編】

**CSR企業総覧**

有力・先進1702社のCSR（企業の社会的責任）データ

東洋経済 For Research & Analysis

Data Bank SERIES 2023

【ESG編】

**CSR企業総覧**

有力・先進1702社のCSR（企業の社会的責任）データ

## ■ランキング・集計表

電気料金高騰はただ序章、危機の正体は？

東洋経済

GX 150兆円投資の運び

エネルギー危機

脱炭素

東洋経済

CSR企業白書 2023

日本のサステナビリティがレポートとデータから見えてくる

信頼される「CSR企業ランキング」トップ500社

2年連続トップ500にKDDIが初めてNTTが首位

NTT

会社基本データ

CSR&財務評価・格付け

CSR全般

掲載情報

ガバナンス・法令順守・内部統制

雇用・人材活用

消費者・取引先対応

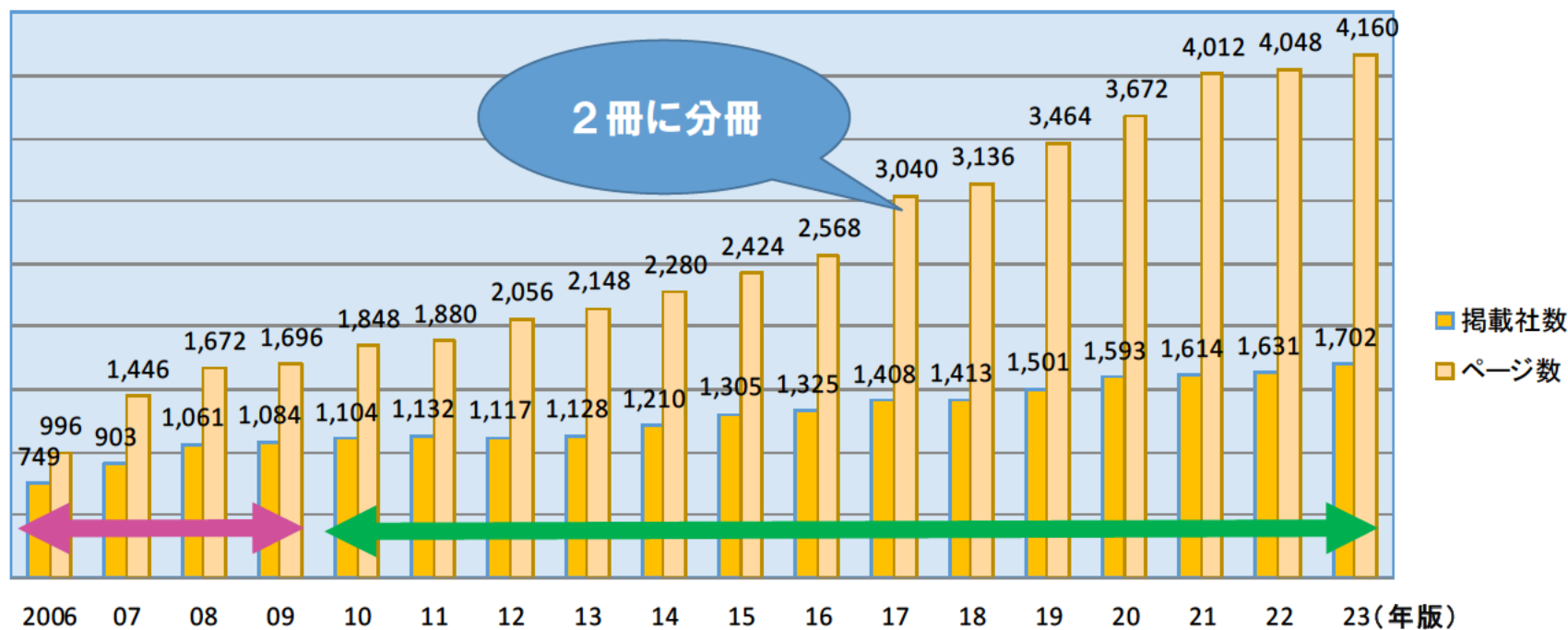
社会貢献

企業と政治の関わり

環境

# 日本最大級のCSR（サステナビリティ）情報を保有

## 『CSR企業総覧』掲載社数とページ数



実は2015年5月の説明会で  
このようなお話をしていました

## CSR部署が主役の時代が来る？

- 企業のさまざまなリスク（・機会）に対する社内専門家集団へ
- 社会課題のニーズを把握・企画化
- 社内の非財務情報の把握（集約・整理）
- 経営企画や広報・IRとの関連性が強まる



CSR部署が企業の中核部門へ？

この方向になりつつある  
ように見えますが・・・

## 一方で気になる点も・・・

- サステナビリティ担当者の短期異動が増えている気が？
- 従業員目線が弱まっている気が？
- 他社分析などを他人任せにしている気が？
- 専門家の発言を鵜呑みにしている気が？



**サステナビリティ・CSRの社内プロが  
各社から減っている気も？**

# CSR（サステナビリティ）活動でより強い会社になっていく

**+ CSR（サステナビリティ）担当者の存在が重要**

より強い会社に

- ・災害復興支援など社会課題解決の取り組みによるノウハウ・販売先獲得
- ・規制面の早期対応での技術向上
- ・**社会課題解決・貢献**

**③企業力・イメージアップ**  
(攻めのCSR)  
(CSV・SDGs)

**②不祥事・トラブル予防**  
(守りのCSR)

- ・事業上の問題点に対応
- ・モラル向上・ルール化
- ・サプライチェーンの対応
- ・環境など各種規制への受動的対応
- ・内部通報の体制整備

**①会社の基盤である人づくりのCSR**

- ・従業員の健康・安全対応
- ・従業員の満足度向上
- ・ダイバーシティ推進
- ・女性活躍推進
- ・取引先・顧客への誠実な対応

CSR活動の積み上げ

持続可能性につながる



今後のサステナビリティは  
どこに向かうのか？

# 創刊号『CSR企業総覧』2006年版の掲載情報をご紹介

## ■『CSR企業総覧』2006年版・日立製作所ページ

<p>6501 ひたち製機株式会社 <b>日立製作所</b></p> <p>(注)「環境」は環境負荷が全体の85%を占める連結会社258社が対象</p> <p>【本社】100-8280 東京都千代田区凡の内1-6-6 【TEL】03-3258-1111</p> <p>【設立】1920.2 【上場】1949.5 【特色】総合電機首位。グループ再編推進。DRAMはNEC、システムLSI等では三菱電機と提携。委員会等設置会社</p> <p><b>CSR基本対応</b></p> <p>【基本方針】創業以来の「事業を通じて社会に貢献する」という社是を継承し、8つの基本方針に基づきCSRを推進 ①企業活動としての社会的責任の自覚 ②事業活動を通じた社会への貢献 ③情報開示とコミュニケーション ④企業倫理と人権の尊重 ⑤環境保全活動の推進 ⑥社会貢献活動の推進 ⑦働き易い職場作り ⑧ビジネスパートナーとの社会的責任意識の共有化</p> <p>【2005年度課題】「日立グループCSR活動取組み方針」のグループ・グローバルな浸透定着を図るとともに、IPO/CAサイクルを有効に機能させ、特にサプライチェーン、人権、海外での取組み強化によりCSRトップレベルを目指す。</p> <p>【CSR担当部署】CSR推進部(2004年6月) 【CSR担当役員】執行役専務(過半)</p> <p>【方針の文書化】日立グループCSR活動取組み方針 【NPO・NGO連携】①東京ボランティア・市民活動センター「日立ボランティア・セミナー」の協働運営や、「社会貢献・イベント講座」の企画・立案時にコンサルテーションを依頼 ②日本NPOセンター「ボランティア支援プログラム」大々的な取組の調査協力依頼、また、同センターが主催するNPOフォーラムの企画・運営のサポートとして社員が参加</p> <p>【SRI、エコファンド等】①SAM(DJSI) ②モーニングスター「SRIインデックス」 ③日本総研「社会的責任経営の進んだ企業」 ④環境ジャーナル「運用のエコファンド「ぶなの森」でAランク評価</p> <p><b>ガバナンス</b></p> <p>【取締役】 【監査役】 【株主】 【企業倫理】 【法令遵守】 【専任部署】 【IR】</p>	<p><b>雇用・人材活用</b></p> <p>【基礎データ】 【従業員】 【年齢別】 【性別】 【新卒入社者の定着状況】 【女子待遇・雇用の多様化】 【産児・育児・介護休暇】 【高齢者・障害者・外国人】 【労働組合】 【資金・休暇・福利厚生】 【教育・研修】</p>
--	---

【電気機器】

- 掲載社数は749社  
(調査は2005年2月開始)
- 今から見ると掲載情報は少ない
- よい会社のベースが「従業員が働きやすい企業」という認識が強い
- 有給休暇取得率、障害者雇用率などは当時からある
- CO<sub>2</sub>排出量削減は当時から多くの企業を取り組んでいる
- 環境マネジメントシステムの構築の実施比率などは今とあまり変わらない
- 女性管理職比率などは全体的に低い
- 他

## 今後のサステナビリティは何をベースに評価するのか？

- CSR元年（2003年）のころと、現在で本質的な取り組みはあまり変わっていない
- ただ、グローバル中心に細かいルール化が進んできた
- 今後、さらに決まり事としてのサステナビリティが増加していくと予想される
- サステナビリティを企業価値拡大にどう結び付けていくのか？
- そもそも企業価値の基準はどうするのか？  
株価か？

**果たして企業価値の判断基準として株価は使えるのか？**

## 2017年3月のセミナーで株価上昇について議論

### 当時の考え

- 株価上昇の先行指標としてCSR（評価）の伸び率が使えそう
- 株価下落はCSR（ESG）ではわかりにくい
- CSR評価上位企業の数年程度の株価上昇はCSRデータ（ESG）で予測は難しい⇒すでに高い

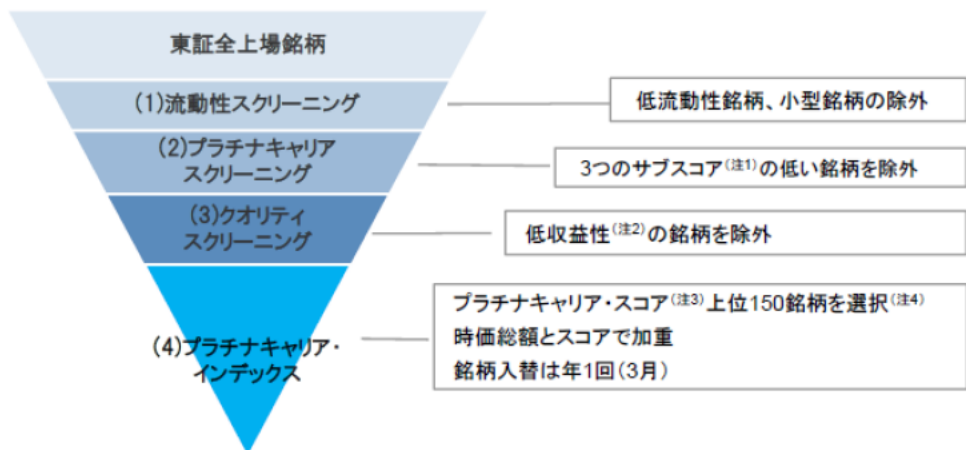
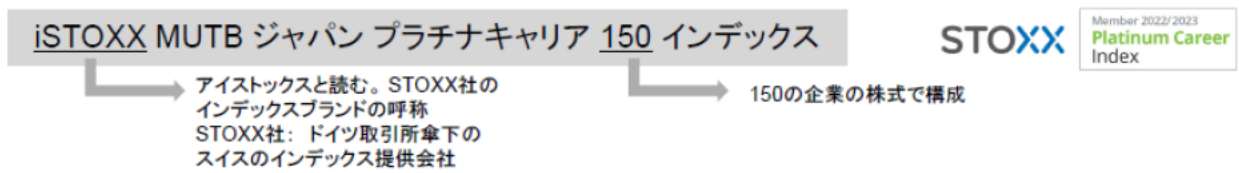
### 現在

- **基本的に同じだが、  
時代が変わったのでは？という思いも**
- ESGの効果について肯定的な分析が増えてきた
- ESGインデックスの効果も
- ただし、反対論も最近、増えてきた印象

# プラチナキャリア・インデックスの結果が参考に？

## プラチナキャリア・インデックス

- プラチナキャリアの浸透を促し、将来の日本が抱える課題解決を目指すSDGsインデックスをスイスSTOXX社と三菱UFJ信託銀行が共同開発（2022年2月3日公表開始）。
- プラチナキャリアの取り組みが積極的かつ、継続的に行える日本企業の株式を選定したインデックス。



プラチナキャリア・インデックス  
説明サイト  
[https://www.stoxx.com/index-  
details?symbol=IMJPPCYN](https://www.stoxx.com/index-details?symbol=IMJPPCYN)

注1: 東洋経済新報社のCSR企業総覧のデータを使用(①長期的視点②自律的な学び③社会課題解決)  
注2: 高ROEを維持できる企業を評価する指標。ROE(自己資本比率)、財務健全性、CF収益性、利益安定性で算出  
注3: 3つのサブスコアに対して、「①長期的視点:②自律的な学び:③社会課題=5:3:2」で合成したスコア  
注4: スクリーニング後の銘柄数が150銘柄未満の場合、下位40%、下位30%とスクリーニング基準を下げる(30%を下限)

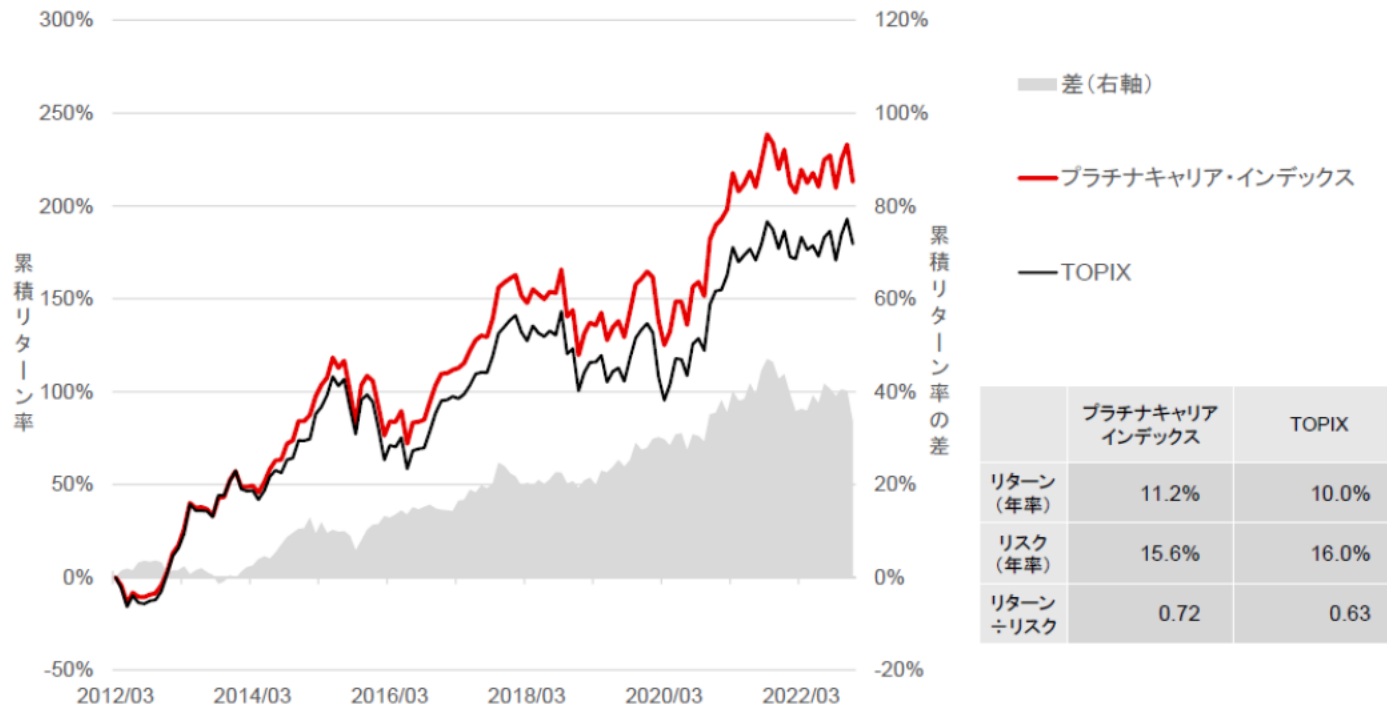


# プラチナキャリア・インデックスのパフォーマンスは高い

## プラチナキャリア・インデックス パフォーマンス

- プラチナキャリア・インデックスは、TOPIXに比べ、運用効率(シャープレシオ)が高い傾向あり。

累積リターンおよび対TOPIX超過リターン推移(2012/4~2022/12)



注: このパフォーマンスは2022年1月まではバックテスト結果。毎年2月末に入手可能なデータをもとに銘柄を選び、3月に銘柄を入替えて、そのパフォーマンスを計測したものの、インデックスの公表日は2022年2月3日。過去のパフォーマンスは将来のパフォーマンスを約束するものではありません。  
出所: STOXX社のデータをもとに三菱UFJ信託銀行作成

# プラチナキャリア・インデックスはなぜよい会社を選んでいるのか？

## 想定される要因

一定レベル  
以上の従業員



教育



福利厚生・  
各種支援制度

企業価値を拡大する基盤



**社会課題への意識が高い従業員や社風**

企業  
価値  
拡大

### ■こうした基盤づくりに効果的な取り組みの一例

- NPO・NGOとの連携
- ボランティア休暇・休職
- プロボノ支援なども

※事業と関係するものばかりではない

# サステナビリティの取り組みには従業員の力が欠かせない

これではダメ

会社主導でサステナビリティ部署中心に行おうとする

ではどうするか？

①社会課題解決を現状の社内の事業だけで行おうとしない

②NPO・大学など社外の力を積極的に活用する

③従業員を巻き込み、取り組みを行う

④従業員が社外で多くの経験ができるようにする



社会課題解決と人的資源拡大で **S X** につながる



## 今後、求められるサステナビリティ担当

- （財務やE S Gなどの）専門性が高く
- データ分析力を持ち
- 社内・社外の情報を幅広くウォッチし
- 従業員の立場になって考えられ
- フットワークが軽い

といった人材が向いているのではないかと考えています。

# さて、今後、私はサステナビリティ・CSR分析者として

このような情報を使って各社の取り組みを見ていきたいと考えています。

東洋経済  
各種刊行物



その他  
公開情報



企業への  
取材



基本は  
『CSR企業総覧』 『CSR企業白書』

**引き続きどうぞよろしくお願ひいたします。  
これまでどうもありがとうございました。**

---